

講習会のお知らせ

■ 救急法基礎講習：1日コース

心肺蘇生やAED を用いた除細動などが学べます		
11/13(土)・12/4(土)・1/8(土)・3/19(土)	日赤富山県支部	9:00～16:30
2/7(月)	県総合体育センター	9:00～16:30

■ 救急法救急員養成講習：2日間コース

急病の手当、けがの手当、搬送などが学べます		
12/11(土)～12(日)・3/20(日)～21(月)	日赤富山県支部	9:00～16:30
2/9(水)～10(木)	県総合体育センター	9:00～16:30

■ 水上安全法救助員養成講習Ⅰ：3日間コース

水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、救助の仕方、応急手当などが学べます		
1/18(火)～20(木)	富山市民プール	9:00～17:00
※救急法基礎講習を事前に修了することが必要		

■ 健康生活支援員養成講習：2日間コース

健康増進と高齢者に起こりやすい事故の予防・手当、日常生活の自立に向けた介護の知識と技術などが学べます		
12/18(土)～19(日)・1/29(土)～30(日)	日赤富山県支部	9:00～17:00

■ 幼児安全法支援員養成講習：2日間コース

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気への対応などが学べます		
2/26(土)～27(日)	日赤富山県支部	9:00～17:00

指導員派遣

- 電話で、開催希望日時・希望内容・受講者人数・会場をお知らせ下さい。
- 派遣は、受講者が10名以上の場合とさせていただきます。
- 指導員の手配や資材の数に限りがあるため、ご希望に添えない場合があります。

新型コロナウイルス感染症に関して

- ★感染拡大等の状況によっては、開催を中止させていただく場合があります。
- ★感染拡大の防止を図るため、講習内容(実技等)を制限するとともに受講者の体調についてお伺いする等の措置をとっております。



受講のお申し込みやお問い合わせ先
日本赤十字社富山県支部 事業推進課
TEL 076-451-7878
<https://www.jrc.or.jp/chapter/toyama/study/>
(ホームページから申し込みができます)

お問い合わせ先
富山県赤十字血液センター
TEL 076-451-5555
<https://www.bs.jrc.or.jp/tkhr/toyama/>



街頭献血のお知らせ

- ★お昼時間は受付をお休みします。
- ★日程は都合により変更することがあります。

10月	3日(日)	イオンモールとなみ アル・プラザ小杉	9:00～12:00	13:20～16:00
	8日(金)	富山県庁	10:00～12:00	13:15～16:00
	9日(土)	イオンモール高岡	9:30～11:45	13:00～16:30
	10日(日)	イオンモール高岡	10:00～12:00	13:15～16:30
	17日(日)	ファボーレ		
	24日(日)	イオンモール高岡		
	30日(土)	イオンモール高岡		
	31日(日)	ファボーレ		

11月	3日(水)	ショッピングア・ミュー	9:30～12:00	13:15～16:00
	6日(土)	イオンモール高岡	10:00～12:00	13:15～16:30
	7日(日)	PLANT-3滑川店	9:00～12:00	13:15～16:00
	13日(土)	イオンモール高岡	10:00～12:00	13:15～16:30
	14日(日)	ファボーレ		
	21日(日)	イオンモール高岡		
	23日(火)	ハッピータウン氷見店	10:00～16:00	
	27日(土)	イオンモール高岡	10:00～12:00	13:15～16:30
	28日(日)	ファボーレ		

12月	4日(土)	イオンモール高岡	10:00～12:00	13:15～16:30
	5日(日)	ファボーレ		
	11日(土)	イオンモール高岡		
	12日(日)	イオンモールとなみ	9:00～12:00	13:20～16:00
	18日(土)	イオンモール高岡	10:00～12:00	13:15～16:30
	19日(日)	ファボーレ		
	26日(日)	イオンモール高岡		
	29日(水)	ファボーレ		
	30日(木)	イオンモール高岡		

◆ 上記以外の献血会場

マリエ献血ルーム
富山市桜町1-1-61 マリエとやま6F 電話 076-445-4500
受付時間は、10:00～12:00 14:00～17:30



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字とやま

人間を救うのは、人間だ。

コロナ禍でも災害に備えて救護訓練を



傷病者の状態を確認する医師

6月11日、富山県支部、富山赤十字病院、富山県赤十字血液センターの3施設は、合同で災害救護訓練を実施しました。

災害発生時、被災者に対し応急救護が必要とされる場合、日本赤十字社は、ただちに救護班を被災地に派遣し救護活動を行います。これは、応急的な災害医療により、一人でも多くの人命を救助するとともに、被災地の医療機関の機能が回復するまでの空白を埋める役割を果たすものです。

現在、救護活動を行う上で、新型コロナウイルスの感染対策は必要不可欠です。今回の訓練では、参加者全員がマスク、アイシールド、フェイスガードを装着し、実際の救護活動と同様に、一処置ごとに資機材のアルコール消毒と使い捨て手袋の交換を行いました。

コロナ禍であっても災害は発生します。救護活動中の感染拡大を防ぐことはもちろんのこと、救護員自身が被災地で感染することも絶対に避けなければなりません。

どのような状況下でも必要な対策を行い、いのちと健康を守るための活動を続けてまいります。



赤十字救護班について

日本赤十字社が災害時に医療救護活動を行うにあたり、活動の実施主体となるのが救護班です。救護班は、医師を班長とする6人を1班として編成し、医薬品や医療資機材のほか、食料、寝具等も必要に応じて持参し、自己完結型の医療救護活動を展開します。

避難所での感染対策に 県内公立小学校に大型サーキュレーターを配備中

富山県支部では、避難所での感染症対策として県内179の小学校に大型サーキュレーターを5ヶ年計画で配備します。初年度である昨年度は13市町 計20校に、今年度は全市町村 計40校に配備する予定です。

大型サーキュレーターは、室内全体の空気を効率的に動かすため、感染対策だけでなく、学校生活の中でも有効に活用していただきたいと思います。



高岡市立定塚小学校大門校長(右)に日赤富山県支部大坪事務局長(左)から引き渡し

富山赤十字病院 今年度新たに「脳血管センター」と「母性内科」を開設

脳血管センターを開設



写真右が桑山副院長

脳血管治療の実績が豊富な桑山直也副院長が着任したことをきっかけに、富山赤十字病院は4月に脳血管センターを新たに開設しました。

当センター開設に合わせ、最新鋭の血管撮影装置も設置。装置は、従来の3倍以上のスピードで画像を処理できるため脳内の血管が詰まった場所や出血した場所を素早く特定することができますとともに、診断から治療までを1台で行うことができます。（装置の導入は県内初、全国8カ所目）



富山赤十字病院
副院長
脳血管センター長
桑山 直也 医師

脳卒中の急性期医療と脳血管病の最先端医療に対応するのが当院の脳血管センターです。

脳卒中急性期医療

● 脳梗塞

脳血管が詰まり半身麻痺や失語になります。

症状から数時間以内ならtPA という血栓溶解薬を注射し、さらにカテーテルで脳の血栓を回収します。治療が早いほどよく回復します。

● 脳出血

脳の中に出血し半身麻痺や失語になります。大きな出血は緊急で手術をします。

● クモ膜下出血

脳動脈瘤（血管のこぶ）が破れて脳の表面に出血する病気です。

突然、強い頭痛を生じるのが特徴で、動脈瘤を処理しないと致命的になります。カテーテルによるコイル治療または開頭によるクリッピング治療の適した方を選びます。

脳血管の最先端医療

巨大脳動脈瘤はフローダイバーターという特殊医療機器で治るようになりました。当センターは県内唯一のフローダイバーター実施可能施設です。また当センターは脳動静脈シャント疾患を治療できる北陸でも数少ない専門的施設です。

母性内科を開設

富山赤十字病院では、4月から母性内科外来を開設しました。

母性内科は、赤ちゃんとお母さんの健康を内科の観点からサポートする診療科です。通常では病気と見なされないような、肥満、血圧が高め、血糖値が高め、栄養不足という状態でも妊娠出産においては大きなリスクとなります。より良い妊娠と出産、産後のお母さんの体調改善をめざし、栄養士、助産師、医師でチーム医療を行なっています。

スタッフ一同お待ちしております。

*このような方に利用いただいています。

- ・不妊治療のなかで肥満の解消を勧められた
- ・血圧が高めだが、妊娠しても大丈夫か
- ・前回の妊娠のとき妊娠糖尿病だったが、現在、血糖値がどうなっているか知りたい
- ・妊娠したが、どのような食事や生活をおくればよいか

母性内科は完全予約制です。

毎週火曜日14:00～16:00
(1枠20分)

【担当医師】川原 第2・4週
仙田 第1・3・5週

*助産師による保健指導もあります。



川原医師(右)と仙田医師(左)

感染拡大により病床がひっ迫した大阪では、重症患者を専門に受入れる臨時の医療施設、大阪コロナ重症センターが開設されました。日本赤十字社は、看護師の不足を補うため、同センターに看護師を派遣しています。

「患者さんを助けたい」 その一念で富山から大阪へ

富山赤十字病院で集中治療室看護師として勤務しながらDMAT（災害派遣医療チーム）にも所属しています。5月の初旬、大阪コロナ重症センターへの派遣の要請があることを知り、迷わず志願しました。

派遣期間は6月1日から20日間であり、現場では人工呼吸器を使用し高度医療が求められている患者ばかりでした。

新型コロナの患者さんをケアしていて悔しいと感じるのは昨日まで回復に向かっていた方が、翌日から急激に容態が悪化し、最悪の場合はそのまま亡くなってしまうこと。回復を願って精一杯のケアを続けてきたのに、やり切れなくなります。一方で、意識不明で運ばれてきた方が、歩けるまで回復した姿を見ると、勇気が湧いてきます。辛いこともあるけど看護師の仕事は、患者さんから力をもらっていると実感します。

私が看護師を志そうと決意したのは困っている人を助けたいという思いがあったからです。看護師になってからも、助けられる命は助けたいという思いが私を突き動かしています。

富山赤十字病院
看護師
塩原 潤 さん



大阪コロナ重症センターにて

(c)Atsushi Shibuya/JRCS

「患者を助けたい」その一念でこれからも努力を惜しまず、頑張っていきたいと思います。

塩原さんの活動の様子が、YouTubeでご覧いただけます



東海北陸ブロック 学生サマー献血キャンペーン2021



7月31日、8月1日の両日、イオンモール高岡を会場に「東海北陸ブロック学生サマー献血キャンペーン2021」を開催しました。

このキャンペーンは、学生献血推進ボランティアが中心となり、「#サマ献2021 献血で繋がろう」を統一スローガンに、



同世代の若者への献血の参加促進を図り、夏場の血液不足を補うことを目的とし実施しました。

富山大学、富山国際大学、高岡法科大学の学生ボランティア24名が参加し、はっぴを着て献血の呼びかけや記念品（救急セット）の提供等を行いました。両日合わせて、120人を超える方に献血へのご協力をいただきました。

